

映像で綴る 20 周年記念日本顔学会大会、フォーラム顔学 2015 －中京大学、名古屋市科学館と共催－

フォーラム顔学 2015 実行委員長
輿水 大和（人工知能高等研究所長）

1. 序

人工知能研究と浅からぬ関係にある顔学を扱う、日本顔学会（<http://www.jface.jp/jp/>）の創立 20 周年記念大会フォーラム顔学 2015 が中京大学清明ホールにて開催された。（写真 1）人工知能高等研究所の多くのメンバーが実行委員会に係わって、開催を支えた。この大会は中京大学、名古屋市科学館との共同の催事でもあった。さらに、学会開催のさまざまなご支援を大学より頂戴した。その御礼を申し上げ、ここに大会概要のご報告、ご紹介記事を寄稿する次第である。なお開会式において、安村仁志学長から歓迎と祝賀のご挨拶を頂戴し、また、学務出張中であつた梅村清英理事長からは、顔学会理事会へのご厚志も頂いた。記して感謝を申し上げる。

（写真 2）

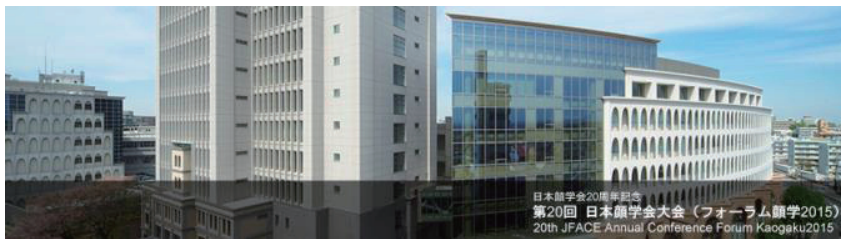


写真 1 本部棟と会場 1 号館外観



写真 2 中京大学安村仁志学長ご挨拶（共催）

2. 開催経緯と開催概要

日本顔学会創立 1995 年から程なく、主催した大顔展名古屋開催が 2000 年に、学会年次大会であるフォーラム顔学が 2004 年にともに名古屋市科学館で開催され、2011 年 3 月に日本顔学会中部支部発足が発足した。これらの小史にこの度の福村晃夫大会長、辻敬一郎副大会長、輿水大和実行委員長がかねてより関わってきたことが、この度の創立 20 周年記念大会をここ中京大学で開催することとなった機縁であった。

2.1 日程と会場と参加者統計

開催日程は、2015年9月12日(土)～13日(日)、会場は中京大学名古屋キャンパスであった。参加者総数はちょうど250名であった。一般参加者147名、学生参加者37名、企業展示参加者36名、サポート教員と学生30名がその内訳であった。清明ホールで開会式、総会、特別講演、閉会式、口頭研究発表が行われ、さらに、2Fレオーネでのポスター研究発表、企業展示、似顔絵など各種イベントが催された。また、アリーナ211にて、20周年記念セッション(式典と懇親会)があった。完全シングルトラックであったことも手伝って、どの会場も常に盛況な場となった。

2.2 支えた開催組織体制と実行委員会の所帯

20回日本顔学会大会は、日本顔学会(主催)が主催したものであるが、中京大学殿と名古屋市科学館殿(共催)、および、公益財団法人科学技術交流財団殿、メ〜テレ殿、読売新聞社殿、中部経済新聞社殿(後援)からそれぞれ大きな協力を頂いた。また、大幸財団殿と中京大学よりは学会開催支援助成金を頂戴した。実行委員会は、福村晃夫大会長、辻敬一郎副大会長、輿水大和実行委員長のもと、表1に示すような体制で推進された。主催の中京大学関係者10名はじめ、名古屋大学など関係近隣の大学から14名の総勢24名の大所帯であって、ここ名古屋に学会を迎えるうえで全力で取り組む形を整えることができたかと考えている。

表1 フォーラム顔学2015の催行組織と実行委員会

大会長 福村晃夫(中京大学)、副大会長 辻敬一郎(名古屋大学)、実行委員長 輿水大和(中京大学)

実行委員会

実行委員幹事長	林 純一郎	(香川大学)
実行委員幹事	加藤 邦人	(岐阜大学)
実行委員幹事	藤原 孝幸	(北海道情報大学)
実行委員幹事	舟橋 琢磨	(中京大学)
実行委員幹事	渡邊 隆	(仙台高等専門学校)
実行委員幹事	富永 将史	(名古屋文化短期大学)
実行委員幹事	徳田 尚也	(名古屋文化短期大学)
実行委員幹事	長坂 洋輔	(中京大学)
実行委員	茂登山 清文	(名古屋大学)
実行委員	向井 希宏	(中京大学)
実行委員	大岡 立	(オフィス大岡)
実行委員	中村 剛	((株)オフィスオフサイド)
実行委員	平松 芽生	((株)オフィスオフサイド)
実行委員	加福 滋	(カシオ計算機(株))
実行委員	川澄 未来子	(名城大学)
実行委員	福谷 貴美子	(名古屋文化短期大学)
実行委員	橋本 学	(中京大学)
実行委員	上芝 智裕	(中京大学)
実行委員	曾我部 哲	(中京大学)
実行委員	井藤 雄一	(中京大学)
実行委員	宮崎 由樹	(中京大学)

組織

主 催	日本顔学会
共 催	中京大学
共 催	名古屋市科学館(一部の催事)
後援機関	読売新聞社
後援機関	中部経済新聞社
後援機関	公益財団法人科学技術交流財団
後援機関	メ〜テレ(名古屋テレビ)

3. 学術研究発表の概要とトピックス

3. 1 フォーラムプログラムの全体像^{〔1〕}

23 件の口頭発表と 40 件のポスター発表（写真 3）に加えて、いとうせいこう氏と興水日本顔学会会長による 20 周年記念特別講演 1(対談)、原島博東京大学名誉教授による 20 周年記念特別講演 2、1 件の企画セッション「化粧文化研究会」、4 件の実演・デモ展示、6 件の商業展示と 2 件の企画展示、「びっくり似顔絵展」、「顔・Love MAKE-UP」を実施した。

また 20 周年記念式典を実施し、これまでの日本顔学会を総括、今後の顔学の進展・進化の促進に努めた。更に、日本顔学会若手交流会が企画したパネル期間常設展示（2015 年 8 月 9 日～10 月、名古屋市科学館、理工館 6F）や体験イベント（8 月 23 日、同、生命館 地下 2 階 サイエンスホール ホワイエ）などの催しを、20 周年記念イベントを遠隔会場として共催の名古屋市科学館において実施し、顔学研究コミュニティの拡大と参加者の学術交流の場を設け、会員だけに留まらず広く市民にも向けた顔研究の討論の機会を提供し、日進月歩の顔学の進展・深化を促進する役割を一定程度果たした。いわゆる物質科学のメッカとでもいふべき公的な科学館において、顔学という非物質科学にも遡及する学術からのメッセージを発信できたことの意義は大きなことであった。



口頭発表（化粧文化研究会）



ポスター発表

写真 3 研究発表の会場風景

3. 2 20 周年記念の特別催事とトピックス

(1) 20 周年記念特別講演（対談）いとうせいこう氏「顔学への期待」

いとう氏に來名頂いた機縁は、氏の持たれているラジオ番組『いとうせいこうの知らない世界』（文化放送）に日本顔学会がお声掛けいただいたことにあった。この度、それを受けて『顔学に期待する』としてのご登壇を快諾くださったのであった。（写真 4）作家・文筆活動（想像ラジオ、平和の俳句）から音楽活動まで、まさに八面六臂ないとう氏ならではの魅力的なお話が満載であった。集団的ダヴィンチ科学を標榜する顔学は、既存の学術カテゴリを広く横に跨いだ超学術を志向しているのだから、いよいよその青雲の気持ちを新たにして、隣人・隣接分野との対話と交流がもたらす、「チャリン！」と聞こえる知恵が合切袋（一切合切何でも入る袋）に入ってくる喜びに駆動されて、また顔学に接した人々と社会から送られる「ドンッ！」と来る声援と笑顔に背中を押されて、自分を磨いてそのまま突っ走ってください、確信を持った处世術を磨き、面白い！楽しい！ところだけに花咲き実も成ると信じていきましょう、そんなエールが対談・進行をお勤めした筆者には響いてきた。また、このエールは、ソクラテスが対話の楽しさを知恵の源泉とした（パイドロス）ことを連想させる力をもったものであった。



写真4 イトウセイコウ氏特別講演（対談・進行 奥水大和日本顔学会会長）

(2) 20周年記念特別講演 原島博氏「たかが顔、されど顔、やはり顔」

原島博氏の20周年記念特別講演「たかが顔、されど顔、やはり顔」は、名古屋市科学館との共催で市民にも公開されてまさに特別に開催された。(写真5) 顔学という学術は、これ以上に身近かつ等身大の研究対象はなく、その故の、尽きることのない面白さと科学研究としての未開拓の魅力を熱く語られた。この講演の詳細は、実はこの9月に丸善出版から出版されたばかりの『顔の百科事典』(写真5 後半)を鳥瞰させてもらえるという実に見事な多重構成であった。この書籍はその性質上非常に高価なものであったにもかかわらず、会期中になんと40冊ほどの異例の大量成約があったと出版社から連絡を頂いたが、その起爆剤はこの特別講演のお陰であったことは疑いない。



写真5 原島博氏特別講演（名古屋市科学館共催、市民公開）『顔の百科事典』（丸善）^[2]



清明ホールから20周年記念セッションの会場（アリーナ211）へ三々五々、移動中。

写真6 閑話休題

(3) 20周年記念セッション－式典と懇親会－

20周年記念セッションと冠して、懇親を深める中、学会創設や運営に貢献された各氏への感謝状贈呈の記念式典を行う、記念セッションを実現した。(写真7)

興水実行委員長の開会挨拶、名古屋市科学館からの共催挨拶、原島前会長による開式乾杯挨拶に始まった。歓談の中、20周年を回顧しつつこれからの学会への期待で大いに盛り上がった。20周年記念式典、次期開催校東京藝術大学からの歓迎のスピーチ、菅沼副会長の中締めにてこのセッションを閉じた。



開会挨拶



乾杯挨拶



歓談・交流



会中締め

写真7 20周年記念セッション(懇親会)場風景と挨拶、乾杯、歓談、中締め

3.3 特に、20周年記念の感謝状の贈呈

記念式典では、故香原 志勢殿、故大山 紀美栄殿、故村澤 博人殿、故山田 寛殿に学会草創期からのご貢献に深謝して【特別感謝状】を贈呈した。各氏に特別にご縁の深い、原島前会長と馬場理事にお受け取り頂いた。

また、【感謝状(団体)】を名古屋市科学館館長 纈 満殿(代理 学芸課長 長谷川 亮一殿)に贈呈申し上げ、日本顔学会への長年に亘るご厚誼に感謝申しあげた。

さらに、学会を支えてこられた歴代の役員各氏に、また、学会活動を日常的に支えること顕著である各氏に、下記のような【感謝状】を差し上げた。(写真8)

【感謝状】歴代役員：大坊 郁夫殿、服部 道廣殿、池田 陽子殿、長谷川 修殿、堀 公彦殿、余語 真夫殿、小館 香椎子殿

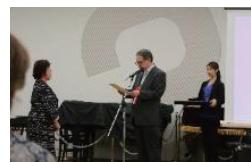
運営を日常的に支える方々：林 純一郎殿、藤原 孝幸殿、富永 将史殿、舟橋 琢磨殿、水村 理香殿、平坂 真弓殿、中村 幸恵殿、長谷川 順一殿



特別感謝状(草創期故人)



特別感謝状(科学館)



感謝状(歴代役員)



感謝状(ネット支援)

写真8 20周年記念の感謝状贈呈

3.4 名古屋科学館との共催事

名古屋市科学館を会場にして、フォーラム顔学 2015 の連携催事を、時と場所を拡張したプログラムを実現した。一つは「顔学の体験イベント」、もう一つは期間限定ながら、名古屋市科学館内に常設パネル展示「顔学へようこそ」であった。これらは、日本顔学会公認サークルである若手交流会が企画し、運営したものである。(写真9)

上でも述べたように、これらは、学会会員だけに留まらず、広く市民にも向けた顔研究の討論の機会を提供し、日進月歩の顔学の進展・深化をアピールできた意味を生み出すことができた。いわゆる物質科学のメッカとでもいふべき科学館において、顔学という新しい非物質科学をも包摂する学術の可能性を発信できたことの意義は大きなことであった。

(1) 顔学の体験イベント

名古屋市科学館生命館 BF ホワイエを会場にして、8月23日(日)に開催された。

その体験イベントの詳細は、科学館 HP にあるように、下記の三テーマであった。(写真9)

http://www.ncsm.city.nagoya.jp/visit/attraction/event/2015/post_344.html

テーマ (A) 顔パーツの付け替えによる印象変化の体験「記念写真が楽しくなる『フォトプロップス』を作ろう」- 表情豊かに変身!!

テーマ (B) 老け顔シミュレーション:「あなたの10年後、20年後の顔をのぞいてみよう」

テーマ (C) 顔認識・自動美顔補正「写真シール機で使われている顔画像の補正を体験してみよう」

(2) 科学館『話題の科学』コーナーに、「顔学へようこそ」パネル有期常設展示 (写真9、後半)

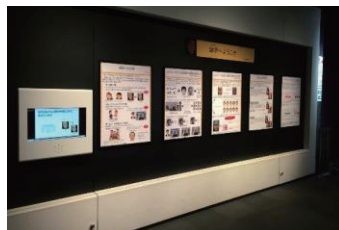
名古屋市科学館理工館の6階の『話題の科学』コーナーに、パネル展示「顔学へようこそ」を実現した。展示期間は、2015年8月9日から10月4日であった。

詳細は、下記の科学館 HP にある。

http://www.ncsm.city.nagoya.jp/cgi-bin/visit/exhibition_guide/exhibit.cgi?id=S616



生命館 BF ホワイエ「顔学の体験」イベント
2015年8月23日



理工館6階パネル展示(「顔学へようこそ」)
2015年8月9日~10月4日

写真9 名古屋市科学館との共催事のスナップ

4. 大会開催を終えて

日本顔学会の第20回大会、フォーラム顔学2015名古屋を以上のように開催し、会場は多くの参加者で溢れ、参加者の笑顔の花が咲いた。関係各位には心から御礼申し上げる次第である。本当に有難うございました。

次回のフォーラム顔学2016は、11月19日(土)20日(日)の日程で東京藝術大学にて開催が決まっている。ご関係の多くの皆様におかれては、今から日程を確保していただければ幸いである。

このフォーラムを閉じるにあたって、辻敬一郎大会副委員長より閉会のご挨拶があり、顔学の課題の核心をついた貴重なメッセージを頂いた。ありがとうございました。(写真10)

それらは、既研究の歴史の中で自身の顔研究を位置づけることを疎かにしないように、分科し深化する研究の成果に顔学の眼差しを注ぐことで変革を生めるように、顔学を舞台にしてココロ現象のセンシングの方法を集積することに期待する、などであったが、ひと時も忘れてはならないことばかりかと大いに自戒したいと思った。

なお、福村晃夫大会長は、ご都合により大会会場にこそお出ましただけなかったが、終始力強く大会を指導、牽引していただいたこともご報告申し上げます。次第である。

また、この度の日本顔学会誌 [1] には、福村大会長、辻副大会長からの特別寄稿論考が掲載されていることも申し添える。

(2015年10月)

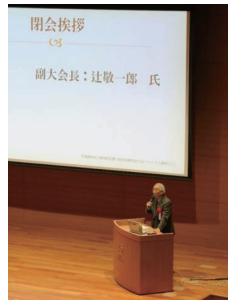


写真 10 辻敬一郎副大会長による閉会ご挨拶

謝辞

共催いただきました中京大学殿、名古屋市科学館殿、また後援を頂きました研究交流財団殿、メ〜テレ殿、読売新聞殿、中部経済新聞殿、さらに開催助成援助を賜りました大幸財団殿と中京大学（工学部）殿には、改めて御礼申し上げます。有難うございました。

なお、ここに掲載した写真はすべて、本学メディア工学科の上芝智裕先生と曾我部哲也先生によるものである。会場の雰囲気を隅々まできれいな映像で拾っていただいた。実行委員として本大会を支えていただいたこととあわせて、特記して深く感謝申し上げる次第である。

参考文献

- [1] 日本顔学会誌、Vo.15、No.1（2015年9月）
- [2] 顔の百科事典、丸善出版（2015年9月）